



- (1) キャンパスと組織 (2027年度)**
- ・白山キャンパス／文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部、国際学部、国際観光学部
 - ・赤羽台キャンパス／情報連携学部、福祉社会デザイン学部、健康スポーツ科学部
 - ・川越キャンパス／理工学部、総合情報学部、環境イノベーション学部
 - ・朝霞キャンパス／生命科学部、環境科学部

- (2) 総合知アプリ**
- 学生自身が学びをデザインできる履修シミュレーションアプリ。専門や関心、将来像から学問の組み合わせをAIが提案する「学問の組み合わせ紹介」、興味・関心から科目検索できる「科目検索」、履修相談ができる「AI履修情報検索アシスタント」などの機能がある。

PICK UP 伝統とイノベーションが結集する4つの「知の拠点」



川越キャンパス(埼玉) 環境イノベーション棟イメージ図



白山キャンパス(東京)



赤羽台キャンパス(東京)



朝霞キャンパス(埼玉)

新学年暦「13+2」がスタート。 学生の多様な学びを創出する 総合知教育の促進と充実を図る



矢口悦子学長

1986年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)単位取得満期退学。博士(人文科学)。専門は社会教育学、生涯学習論。2020年より現職。

SUMMARY

哲学者・井上円了博士が1887年に創立した私立「哲学館」を起源とする東洋大学。キャンパス再編や学部学科の改組、独自の入試改革などを推し進め、日本の大学教育を牽引しています。2025年度には学部学科の枠を越えて自由に学ぶ「総合知」教育が始動。2026年度からは新学年暦「13+2」を導入し、オンデマンドを活用した合理的かつ多様な学びを促し、3万人の学生一人ひとりの豊かな学びを創出する取り組みを進めています。さらに2027年春には「環境イノベーション学部」を新設。拠点となる川越キャンパスの整備も進行中です。先進的な大学改革を展開する矢口悦子学長に、そのねらいや今後の展望などについて伺いました。



「総合知」教育は10年スパンで進めている大きな構想です。その第1弾が昨年開始した600の専門科目の共有化でした。この1年で顕著なのは、自キャンパスの科目は8割の学生が対面授業を選択し、他キャンパスの科目は9割以上の学生がオンデマンド授業を選択したことです。学びたいと思ったときに学べること、自己主導性が学生たちに受け入れられていることを実感しています。人気の科目は哲学で、東洋大学の学生らしい選択をしてきているのを感じています。今後は「総合知」のコンセプトをキャリア教育や、部活動、ボランティア活動にも展開していきたいと考えています。

「総合知」教育の最大の目的は学生に多様な学びを提供することです。新学年暦「13+2」によって国内外での研修やゼミ活動、スポーツやボランティアなどさまざまな課外活動に余裕をもって取り組むことが可能になりました。また海外研修に参加する学生を増やすことも狙いの一つです。夏セッションが長くなることで、渡航費が下がる9月に海外に行くことが可能になります。海外の大学の多くは新学期が始まるタイミングですので、現地の学生との交流もしやすくなるのではないかと考えています。(矢口学長)

各学期の前に設けられた「1+Weeks」では、通常授業前のガイダンスのほか、理系学部では実験や実習前の安全教育などをオンデマンドで実施することで、学生の授業への意識が高まったといえます。また、この期間に数学や語学などの基礎学力テストを実施することで個別支援が必要な学生の対応がより丁寧に行えるなど、さまざまなメリットが生まれています。

02 2027年4月には「環境イノベーション学部」を新たに設置します。環境問題の解決に向けた新しいアプローチの仕方を学ぶ同学部では、AIなどのデジタル技術やビッグデータを活用して環境問題の解決に挑む「環境創造力」と、それらを社会実装するために科学的根拠をもって人々に伝える「科学コミュニケーション」を備えた人材の育成を目指します。2年次まではコース分けをせずに基礎を固め、3年次以降は「環境創造コース」と「科学コミュニケーションコース」に分かれて専門性を高めます。

同学部が設置される川越キャンパスには、多様な動植物が生息する「こもれびの森」があり自然豊かな環境です。建設中の新校舎は太陽光発電による創エネと、地下水利用を活用したエネルギー消費実質ゼロを目指すZEB仕様を採用。キャンパス全体が教材となり、フィールドワークをはじめ実感を伴った学びを展開します。

「実体験から現場的な感覚を掴み、それを理論的に位置づける、現場と理論を往還する学びが最大の特徴です。まず現場がどうなっているのかを自分の肌で感じ、その肌感覚を理論的に説明できること。この2つの力を併せ持つ人を



「総合知」教育は10年スパンで進めている大きな構想です。その第1弾が昨年開始した600の専門科目の共有化でした。この1年で顕著なのは、自キャンパスの科目は8割の学生が対面授業を選択し、他キャンパスの科目は9割以上の学生がオンデマンド授業を選択したことです。学びたいと思ったときに学べること、自己主導性が学生たちに受け入れられていることを実感しています。人気の科目は哲学で、東洋大学の学生らしい選択をしてきているのを感じています。今後は「総合知」のコンセプトをキャリア教育や、部活動、ボランティア活動にも展開していきたいと考えています。

「総合知」教育の最大の目的は学生に多様な学びを提供することです。新学年暦「13+2」によって国内外での研修やゼミ活動、スポーツやボランティアなどさまざまな課外活動に余裕をもって取り組むことが可能になりました。また海外研修に参加する学生を増やすことも狙いの一つです。夏セッションが長くなることで、渡航費が下がる9月に海外に行くことが可能になります。海外の大学の多くは新学期が始まるタイミングですので、現地の学生との交流もしやすくなるのではないかと考えています。(矢口学長)

03 環境×デジタル×科学を学ぶ環境イノベーション学部

04 考えて言葉にする力を養い自分なりの哲学をもつ人

万人の学生が自分に合った学びを模索し、さまざまな挑戦しながら成長する。矢口学長はそれを「3万人のラーニングジャーニー」と表現します。学生の知の旅に寄り添うその根幹には「哲学する力」を育てる創立時から伝統があります。

「例えば、本学はオリンピック選手を多数輩出していますが、彼ら彼女らには哲学をもったアスリートになってほしいと伝えています。なぜ走るのか、なぜ泳ぐのかを突き詰めて考える。そして自分を磨き、奮闘する。それが社会貢献につながります。これは全ての学生に当てはまります。やりたいことや目標を実現するためには、まず自分で考え、言葉にし、自分なりの答えを導き出すことが大切です。それを他者に伝えて意見を聞き、ときには力を貸してもらったことも目標実現への近道になるでしょう。そのためにも受験生のみならずには、文章を読んだ考えをまとめ、他者と意見を交わす営みをしっかりとやってきてほしい。思考と対話を積み重ねた先に、人間として一番大切な「教養」が育まれるのです」(矢口学長)

「総合知」教育は10年スパンで進めている大きな構想です。その第1弾が昨年開始した600の専門科目の共有化でした。この1年で顕著なのは、自キャンパスの科目は8割の学生が対面授業を選択し、他キャンパスの科目は9割以上の学生がオンデマンド授業を選択したことです。学びたいと思ったときに学べること、自己主導性が学生たちに受け入れられていることを実感しています。人気の科目は哲学で、東洋大学の学生らしい選択をしてきているのを感じています。今後は「総合知」のコンセプトをキャリア教育や、部活動、ボランティア活動にも展開していきたいと考えています。

「総合知」教育の最大の目的は学生に多様な学びを提供することです。新学年暦「13+2」によって国内外での研修やゼミ活動、スポーツやボランティアなどさまざまな課外活動に余裕をもって取り組むことが可能になりました。また海外研修に参加する学生を増やすことも狙いの一つです。夏セッションが長くなることで、渡航費が下がる9月に海外に行くことが可能になります。海外の大学の多くは新学期が始まるタイミングですので、現地の学生との交流もしやすくなるのではないかと考えています。(矢口学長)

01 学生自身が学びをデザイン専門性と「総合知」を育む

02 総合知の獲得を促す独自の学年暦「13+2」

「総合知」教育の最大の目的は学生に多様な学びを提供することです。新学年暦「13+2」によって国内外での研修やゼミ活動、スポーツやボランティアなどさまざまな課外活動に余裕をもって取り組むことが可能になりました。また海外研修に参加する学生を増やすことも狙いの一つです。夏セッションが長くなることで、渡航費が下がる9月に海外に行くことが可能になります。海外の大学の多くは新学期が始まるタイミングですので、現地の学生との交流もしやすくなるのではないかと考えています。(矢口学長)

「総合知」教育の最大の目的は学生に多様な学びを提供することです。新学年暦「13+2」によって国内外での研修やゼミ活動、スポーツやボランティアなどさまざまな課外活動に余裕をもって取り組むことが可能になりました。また海外研修に参加する学生を増やすことも狙いの一つです。夏セッションが長くなることで、渡航費が下がる9月に海外に行くことが可能になります。海外の大学の多くは新学期が始まるタイミングですので、現地の学生との交流もしやすくなるのではないかと考えています。(矢口学長)